

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

運営年度	令和6年度	学校コード	F113310103085	設置等組織名	理工学部（グリーンテック/ロジー学科）
大学名	前橋大学	設置区分	私立	事業計画名	前橋大学理工学部「グリーンテック/ロジー」学科設置計画（令和8年3月5日 事業計画名変更承認）
学校種	大学	都道府県	東京		

1.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間		事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和6年度	1-① 令和6年7月～ 新学科設置準備事務室の設置 1-② 令和6年7月～ 新学科設置周知のための広報/ウェブサイト作成 1-③ 令和6年8月～ 学生定員確保の見直しに係るアンケート等調査の実施 1-④ 令和6年8月～ 実験実習を行う授業科目の実験実習環境および安全性検討のための予備実験の実施 1-⑤ 令和6年8月～ 新学科における留学生確保とニーズ調査のための本学国外連携校への訪問（ブラジル、マレーシア） 1-⑥ 令和6年9月～ カレッジ検討のための本事業採択校等の国内大学、及び連携予定企業への訪問調査 1-⑦ 令和6年9月～ 連携予定企業との新学科学生選抜協議会や準備会等の開催 1-⑧ 令和6年10月 新学科編出設置に係る大学設置・学校法人協議会大学設置分科会運営委員会への事前相談書類の提出	1-① 令和6年7月～ 新学科設置準備事務室の設置（6年7月～専任職員配置、令和7年2月～嘱託職員採用） 1-② 令和7年1月～ 新学科設置周知のための広報/ウェブサイト作成 1-③ 令和6年7月～ 学生定員確保の見直しに係るアンケート等調査の実施 1-④ 令和6年8月～ 実験実習を行う授業科目の実験実習環境および安全性検討のための予備実験の実施 1-⑤ 令和6年8月～ 新学科における留学生確保とニーズ調査のための本学国外連携校への訪問（マシコ、ブラジル、タイ） 1-⑥ 令和6年9月～ カレッジ検討のための本事業採択校等の国内大学、及び連携予定企業への訪問調査 1-⑦ 令和7年3月 連携予定企業とオンラインで打ち合わせを実施 1-⑧ 令和6年10月、令和7年1月 新学科編出設置に係る大学設置・学校法人協議会大学設置分科会運営委員会への事前相談書類の提出（令和7年3月 結果受領、編出設置の承認） 【改組内容】 ・令和6年 理工学部グリーンテック/ロジー学科について、改めてカレッジの検討を行い、地球科学を中心に化学等の理学に関する科目をカレッジに加えることとし、これによって学位分野を当該計画が「工学関係」のみから、「理学関係・工学関係」に変更して学科の編出設置を行うこととした。令和7年1月に事前相談を行い、令和7年3月に編出設置認可の判定を受けた。（令和8年度開始） ・令和6年 理工学部グリーンテック/ロジー学科の設置に伴って、既設の「理工学部共生創造理工学科」について、当初は定員減を行ったうえで学科名称の変更を行ない計画であったが、改めて改組の内容を検討した結果、同学科を廃止し、新たに「理工学部生命理工学科」を開設することとした。同学科については、令和6年10月に事前相談を行い、令和6年12月に編出設置認可の判定を受けた。（令和8年度開始） ・令和6年 理工学部グリーンテック/ロジー学科の設置に伴って既設学部（文系）の廃止について検討を行い、経済学部と経営学部を廃止し、新たに経済経営学部ビジネス学科を設置することとした。この学部の新設は、令和6年10月に事前相談を行い、令和6年12月に編出設置認可の判定を受けた。（令和8年度開始）	令和6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。	
	1-① 令和6年から継続 新学科設置準備室の設置 1-② 令和6年から継続 新学科設置周知のための広報/ウェブサイトの作成 1-③ 令和6年から継続 学生定員確保の見直しに係るアンケート等調査の実施 1-④ 令和6年から継続 実験実習を行う授業科目の実験実習環境および安全性検討のための予備実験の実施 1-⑤ 令和7年4月～ 国内及び国外での新学科学生募集説明会の開催（東京、大阪、ブラジル、マレーシア、インド、中国、ネパール）（令和7年9月16日 計画変更承認） 1-⑥ 令和7年8月～ 連携予定企業との新学科学生選抜協議会の開催 1-⑦ 令和7年7月 国内外校関係者との連絡協議会の開催（令和7年9月16日 計画変更承認） 1-⑧ 令和7年8月 海外研修実施に係る実地視察及び協議（ブラジル）（令和7年9月16日 計画変更承認） 2-① 令和6年12月～ 実習用農場及び排水設備の設置・整備工事 2-② 令和7年2月～ 理工学部棟内実験室改修工事及び実験室設備設置工事	1-① 令和6年から継続 新学科設置準備室の設置 1-② 令和6年から継続 新学科設置周知のための広報/ウェブサイトの作成 1-③ 令和6年から継続 学生定員確保の見直しに係るアンケート等調査の実施 1-④ 令和6年から継続 実験実習を行う授業科目の実験実習環境および安全性検討のための予備実験の実施 1-⑤ 令和7年4月～ 国内及び国外での新学科学生募集説明会の開催（東京、大阪、ブラジル、マレーシア、インド、中国、ネパール） 1-⑥ 令和7年8月～ 連携予定企業との新学科学生選抜協議会の開催 1-⑦ 令和7年7月 国内外校関係者との連絡協議会の開催 1-⑧ 令和7年8月 海外研修実施に係る実地視察及び協議（ブラジル） 2-① 令和6年12月～ 実習用農場及び排水設備の設置・整備工事 2-② 令和7年2月～ 理工学部棟内実験室改修工事及び実験室設備設置工事	令和7年度自己評価	【2】計画を十分に実施していない。 ・計画のとおり「グリーンテック/ロジー」学科を令和8年4月に開設したが、入学定員60名に対し、実際の入学希望者が44名、うち留学生16名となった。入学定員を充足しないという結果となったため、引き続き学生募集活動を強化していくとともに、入学生及び留学生のさらなる獲得のため、首都圏の高校への訪問、日本国内で開催される外国人留学生向けの進学フェアへ参加し、情報発信を行う。 ・フェーズ2で計画した4つの施設設置工事のうち、2つについては令和7年度内に竣工したが、残る2つの施設について、設計及び一次粗工事に時間を要したため、令和8年度に工事を実施することとした。なお、この変更に伴う授業実施等への影響はない。	
令和7年度	2-② 令和7年2月から継続 理工学部棟内実験室改修工事及び実験室設備設置工事（令和8年3月5日 計画変更承認） 3-① 令和8年4月～ 新学科運営のための事務職員を理工学部事務室内に配置（新学科設置準備室事務職員を充当） 3-② 令和8年4月～ 新学科開設の広報活動及び学生募集説明会の開催 3-③ 令和8年12月～ 連携企業協議会の開催 3-④ 令和9年2月～ 新学科自己点検・評価委員会の開催	2-② 令和7年2月から継続 理工学部棟内実験室改修工事及び実験室設備設置工事 3-① 令和8年4月～ 新学科運営のための事務職員を理工学部事務室内に配置（新学科設置準備室事務職員を充当） 3-② 令和8年4月～ 新学科開設の広報活動及び学生募集説明会の開催（札幌、東京、川越、大阪、福岡、中国（北京・上海）、マシコ、インド、ネパール、マレーシア、香港、台湾、ブラジル） 3-③ 令和8年12月～ 連携企業協議会の開催 3-④ 令和9年2月～ 新学科自己点検・評価委員会の開催	令和8年度自己評価	リストから選択してください。	
			令和9年度自己評価	リストから選択してください。	
令和9年度					
令和10年度				令和10年度自己評価	
				リストから選択してください。	
令和11年度				令和11年度自己評価	
				リストから選択してください。	
令和12年度				令和12年度自己評価	
				リストから選択してください。	
令和13年度				令和13年度自己評価	
				リストから選択してください。	
令和14年度				令和14年度自己評価	
				リストから選択してください。	
令和15年度				令和15年度自己評価	
				リストから選択してください。	
認可申請又は編出	令和7年4月 理工学部グリーンテック/ロジー学科 学科の設置編出予定	令和7年5月 理工学部グリーンテック/ロジー学科 学科の設置編出			
定員減又は学部等の廃止	令和7年4月 理工学部共生創造理工学科 学生募集停止の報告（入学定員90名、理学関係・工学関係） 令和7年3月 経済学部経済学科 学生募集停止の報告（入学定員190名、編入予定員18名、経済学関係） 令和7年4月 経営学部経営学科 学生募集停止の報告（入学定員190名、編入予定員26名、経済学関係） 令和7年3月 理工学部共生創造理工学科 学生募集停止（同上） 令和8年4月 経済学部経営学科 学生募集停止（同上） 令和7年3月 経済学部経営学科、経営学部経営学科 学科編出の編出（令和8年7月2日 計画変更承認）	令和7年3月 理工学部共生創造理工学科 学生募集停止の報告（入学定員90名、理学関係・工学関係） 令和7年3月 経済学部経済学科 学生募集停止の報告（入学定員190名、編入予定員18名、経済学関係） 令和7年4月 経営学部経営学科 学生募集停止の報告（入学定員190名、編入予定員26名、経済学関係） 令和7年3月 理工学部共生創造理工学科 学生募集停止（同上） 令和8年4月 経済学部経営学科 学生募集停止（同上） 3年度編入予定員は令和10年度より学生募集停止） 令和8年4月 経営学部経営学科 学生募集停止（同上） 3年度編入予定員は令和10年度より学生募集停止）			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	創価大学
-------------	-------	-----	------

2.申請資格の確認

- i) 学生募集停止中の大学
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
- iv) 設置計画履行状況調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	i)	ii)	iii)	iv)	v)
すべての項目に該当していない					

3.申請要件の取組状況

- ① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。□
- ② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。
- ③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。
- ④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。
- ⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。
- ⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。
- ⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。
- ⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。
- ⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。
- ⑨ 事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）
- ⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80％を満たす計画であること。
- ⑪ フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5％を上乗せした水準以上とする計画であること。
- ⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。
- ⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。
- ⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、 令和7年度 の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左側に該当する申請要件を選択し、右側に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件等について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

4.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<div>[a.企業や自治体と連携した科目の整備・実施] グリーンテクノロジー学科では、実務家教員による授業科目の提供や、連携企業等から派遣された学外講師によるオムニバス授業科目を開講し、課題解決型の授業を行うとともに、グリーンテクノロジー企業等でのインターンシップを行うキャリア科目を配置することで、政府・自治体・既存企業が要求するカーボンニュートラル事業を立案、牽引する人材を育成する。</div> <div>[c.関連分野に強みをもつ海外大学との連携] グリーンテクノロジー学科では国際的に開かれた学科を目指して、オンラインを利用した海外交流校との共同授業（インドネシアのスラバヤ工科大学など）、海外交流校・海外共同研究機関（アメリカのフロリダ大学・サリー大学、マレーシアのアトラ大学・トングスマス大学など）からの招聘教員による英語での専門科目の授業、同交流校・共同研究機関での海外インターンシップや研究を実施する。</div>	<div>[a.企業や自治体と連携した科目の整備・実施] 東京都が実施する「ECO-TOPプログラム」について東京都関係者との協議を行った。現在ECO-TOPプログラムの申請に向け、グリーンテクノロジー学科内にワーキンググループを設置し、検討を行っている。</div> <div>[c.関連分野に強みをもつ海外大学との連携] 本学科の海外研修科目で実施する海外インターンシップについて打ち合わせるためブラジル及びマレーシアに遠航し、現地の研究機関、大学、企業との協議を行った。また、ネパールのトリプバン大学及びカトマンズ大学に遠航し、共同研究に関する打ち合わせを行った。</div>	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a.入学者選抜における科目の見直し
- チェック b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出選授業の実施等）
- チェック d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<div>[a.入学者選抜における科目の見直し] 本学の既存学部・学科にはない文理融合教育という特徴を踏まえ、フェーズ1において文系科目での受験も可能となる入試制度、及び科目の見直しを行う。</div> <div>[b.女子学生の確保に向けた取り組み] 女子学生の志願者数増のため、神田女学園中学校・高等学校と高大教育連携協定を締結し、同校の「全校フィールドワーク」において、理系分野での体験授業を提供する予定となっている。さらに、内閣府主催の理工チャレンジにおける「理工系女子応援ネットワーク」への参画、及び女子中高生に理工系分野に興味・関心を持ってもらえるようなイベントを企画する。</div> <div>[c.地域の初等中等教育段階の学校との連携] 本学では探究活動を担当する高校や教育系企業の意見をもとに、高校の「総合的な探究の時間」をサポートする創価大学オリジナルの出前授業プログラム「探究授業 そうか！」を開発し、令和5年度より首都圏の高校を対象にプログラムの提供を開始している。グリーンテクノロジー学科においても、同プログラムへのコメンタリングを提供し、地域の初等中等教育段階との連携を行う。</div> <div>[e.留学生の受け入れ強化に向けた取り組み] 国際バカロレア（IB）機構プログラムを持つブラジル創価高校および創価インターナショナルスクール・マレーシアなどの連携校において、本学教職員が現地で入試説明会を開催し、留学生の受け入れ強化を行う。また、当該高校生向けにオンラインで学科説明会・模擬授業を開催し、学科カリキュラムの特色および修学イメージの理解を深める機会を設ける。更に、文部科学省の「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に応募し、連携校に限らず途上国を含む幅広い地域からの国費奨学金留学生（学部留学生）の獲得を目指す。</div>	<div>[a.入学者選抜における科目の見直し] グリーンテクノロジー学科は、文理融合型のカリキュラム編成とすることから、入学試験における科目の見直しを行い、文系科目でも受験が可能となるよう科目の見直しを行い、R7年3月13日にホームページ上で公表した入試大綱に沿って試験を実施した。</div> <div>[b.女子学生の確保に向けた取り組み] 女子学生の志願者獲得に向けて、総合型選抜入試の一つとして理工学部として「女子特別選抜入試」の導入し、試験を行った。</div> <div>[c.地域の初等中等教育段階の学校との連携] 本学の系列校である創価中学校・高等学校（東京都小平市）、関西創価中学校・高等学校（大阪府交野市）の生徒を対象に、理系に関する関心を高めてもらうことを目的に「アドバンス・サイエンスセミナー（高2対象）」「ジュニア・サイエンス・スクール（中学生対象）」「オンライン・サイエンス・セミナー（高1対象）」を実施した。</div> <div>[e.留学生の受け入れ強化に向けた取り組み] 留学生の受け入れ強化に向け、インド、中国、ネパール、マレーシア、インドネシア、タイ、韓国へと遠航し、現地に在る高校生やその保護者、学校関係者へのグリーンテクノロジー学科についての説明会を開催した。また、中国においては「第2回日本留学巡回展」（中国在住の高校生を対象とした日本留学フェア）へ参加し、高校生およびその保護者へグリーンテクノロジー学科についての説明を行った。また、メキシコ・グナフタ大学付属高校関係者を本学へ招聘し、同校から本学への進学者獲得に向けた協議を行った。</div>	

大学名	創価大学
-----	------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	創価大学
-----	------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1500	1500	1215																
		入学者数	人	1264	1242	1255																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	35	20																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,500	1,500	1,215																
		入学者数(B)	人	1,299	1,262	1,255																
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.87	0.84	1.03																
	収容定員等	収容定員(C)	人	6184	6184	5899																
		編入学定員	人	92	92	92																
		在籍者数(D)	人	5881	5618	5484																
		編入学者数	人	114	107	99																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.95	0.91	0.93																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			申請－5年	申請－4年	申請－3年	申請－2年	申請－1年	申請	選定		開設										
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	2,707,323	2,617,773	3,527,476	3,505,936	4,940,654	4,974,192	3,429,870	4,021,088											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間に於ける各年度の外部資金)	千円	3,246,912
本事業による助成金の額(F)	千円	172,300
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	3,251,219

特記事項

「1.本事業対象となる学部等の状況」のR8年度の編入学定員およびその他の学期の入学定員、「2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況」のR6年度～R8年度の編入学定員、R8年度のその他の学期の入学定員、および「3.大学（学士課程）の状況」のR6年度～R8年度のその他学期の入学定員0人とは若干名を意味している。
